



## 阿南防災士の会

平成24年度阿南市総合防災訓練に援助として参加。(陸上自衛隊徳島駐屯地)



防災とボランティアの日(1月17日)に行われた発足式の様子。

「個の力を結集して、民間から防災・減災活動に取り組んでいきたい」。そんな思いが形となり、平成24年1月1日、全国でも珍しい防災士のグループ「阿南防災士の会」が誕生しました。現在、会員は32人。どこにいてもつながっている「空」をイメージしたロイヤルブルーのベストと帽子がトレードマークの防災エキスパート集団です。

防災士とは、社会のさまざまな場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、かつ、そのために十分な意識・知識・技能を有する人で、NPO法人日本防災士機構から認定を受けた人のことをいいます。全国で5万2746人(7月末現在)の方が資格を有し、社会のさまざまな場で活躍しています。

防災士の役割は、大きく分けて3つあります。①災害時の公的支援が到着するまでの被害の拡大軽減 ②災害発生後の被災者支援の活動 ③平常時の防災意識の啓発、自助・共助活動の訓練です。「阿南防災士の会」では、地域の防災訓練などに参加して、防災・減災に関する知識や技術を還元するほか、情報の共有化を図り、スキルアップのための研修会や講習会にも取り組んでいます。会長の西尾博幸さん(64歳・長生町)は、「会員一人一人が使命感を持って、有効な活動ができていきたいと思います。私たちの活動をより多くの方に知っていただき、地域の皆さんと連携・協力して災害に強いまちづくりを進めていきたい。」と話しています。

平成22年度版「防災白書」では「新しい公共の力」として紹介された防災士。東日本大震災後の防災意識の高まりのなかで、防災士への期待はますます大きくなっています。

